

CWA NEWS



友好の絆への願い

銚子はね太鼓保存会 越川 昭一 さん(CWA会員)



州庁舎街の広場で太鼓の演奏を披露

シダーバーグ及びブルックフィールドの市庁舎広場の公演では、祭日の日中だったこともあり、親子連れの市民が集まり、芝生の広場で椅子に座ったり寝転んだりと自由なスタイルでくつろぎながら演奏を楽しんでいました。そこで、舞台上の演奏だけでなく、芝生の上で踊ったり、獅子舞で市民の間を回ったりと会場全体でお客様と楽しみながらの演奏を試みました。太鼓を体験してもらうため、市民に積極的に太鼓の手ほどきをしていた子供たちは「もっと英語が話せたらなあ」と、気持を伝えるために英語が大切であることを痛感していました。

今回の当保存会の参加者は、18名中11名が子供であり、生活面においても、演奏面においても、渡米までに、学習や練習を重ねて来ました。その努力もあり、相手の心を打つ演奏や交流が出来ました。この交流をきっかけに、新たに日米両国の子供たちに友好の種が蒔かれ、語学の大切さを実感したように思います。両国の子供たちがお互いに語学を学び、数年後、また交流の花が咲くことを願いたいと思います。

1990年から続く千葉県とウィスコンシン州との姉妹県州関係は今年で四半世紀の節目を迎えます。

私達、銚子はね太鼓保存会は、姉妹県州関係締結当初のウィスコンシン千葉 Inc. の委員である伊藤幸男氏の紹介で「ウィスコンシン州に根付いた日本語教育の普及」のため、1993年の千葉県友好使節団派遣以来2～3年毎に太鼓での国際交流を続けてきました。

今回の7月15日～21日の国際交流公演は、WI国際教育交流推進協議会(NPO)とメクオン市のコンコーディア大学の協力もあり、大学の学生寮を拠点として、いくつかの町を訪問しました。

州都マディソンでは、官庁街を訪問し、副知事や自然環境庁(DNR)長官より歓迎のご挨拶をいただきました。特にクレーフッシュ副知事は、太鼓の体験にも参加され、たいへん喜んで歓迎して下さいました。

また、ウィスコンシン千葉 Inc. の宮崎文子さんも来場下さり、伊藤氏を含めた姉妹県州関係締結当初の方々の前で演奏した時は、これまで何度か訪問した時の交流の思いが溢れてきました。



和太鼓体験はどこでも大人気、写真下の右側はクレーフッシュ・ウィスコンシン州副知事

A New American Life

一元ALTからの現況報告



Frederick Lauer

*日本語は紙面の都合で意訳としました。

So much has happened in the year and few months since I left Japan. For one, I didn't return to Wisconsin, so I haven't exactly had a chance to find out what's changed other than our Governor Scott Walker running for president (which he's subsequently withdrawn from doing). Besides its ever changing political landscape, as far as I can tell Wisconsin is much as it was; a beautiful landscape full of industrious and wonderful people.

In August, 2014 I left Togane, Chiba and moved to Missoula, Montana to pursue a new career and a passion for the environment. Montana, like Wisconsin has forged a relationship with a prefecture in Japan; Kumamoto. I accepted a graduate studies offer at the University of Montana in their Systems Ecology program, joined the Human-Dimensions Lab in the College of Forestry and Conservation, and have been conducting research while studying for my Masters of Science degree. The road to graduate school was rife with challenges, but the adventure has been worth it.



Rocky Mountain Front

In the short time I've been here I've made many new friends, welcomed my wife to a new life in the United States, and have seen a great deal of the countryside here that I would never have had an opportunity to see were it not for my placement at the university. Moreover, my focus on the social aspects of natural resource management and conservation has led to many wonderful and enlightening discussions with colleagues, professors, ranchers and residents.

Montana is a landscape full of history which is arguably short (not including the millennia of influence native peoples' had here), but full of myriad stories. Many are of the adventures of Lewis and Clark, while an equal number are related to recent efforts to restore much of the rivers and forests to a condition where they can be prepared for future changes. Even though Montana holds an image of a pristine landscape, it is marked by thousands of mines (e.g., gold, copper, and coal), oil fields, and other sources of pollution that prompt a need for ecological action.

I plan to graduate in May of 2016 with a new degree and a new career focus. I hope to work with an NGO near me, or find an opportunity to network with schools in my area. My time in Japan gave me a love for the contribution that community can make in a person's life, and I hope to return that favor by working with schools and their students in the future. I envision a time when I am able to connect students with their community in projects that help the environment. I hope to find a way to incorporate environmental studies and projects into local school curriculums and encourage students to engage with their communities to benefit their unique places.



Lake McDonald, Glacier National Park

In the meantime I'll enjoy the wonderful things I'm learning, the landscapes around me, and the opportunity to be at an amazing school in an amazing place. I'm thankful that my time in Japan interacting with residents of Chiba has given me the insights I rely on now to hopefully help create a better future for nearby communities.

日本を去ってから1年余の間に多くのことが起こりました。私はウイスコンシン州には戻らなかったのでよく分かりませんが、ウイスコンシン州はほぼ昔のまま、美しい景色の中に沢山の勤勉で素晴らしい人々が溢れていると思います。

昨年8月東金を去り、モンタナ州ミズーラ市に移り住みました。私はモンタナ大学の大学院で生態学プログラムを研究するオファーを受け入れ、森林保護の単科大学の人間学研究室に入り、理学修士の学位を取るため研究しています。卒業までには難題が山積していますが、やりがいはあります。

私は、沢山の新たな友人を作り、日本からは妻を迎い入れ、新生活を始めました。そして、私が大学関係者でなかったら経験しなかった沢山の田舎を見て、私の研究している天然資源の管理と保護の立場から、研究仲間、教授、牧場主、住民達と多くの素晴らしく啓発的な議論をしました。



Avalanche Lake, Glacier National Park

モンタナ州の風景には、無数の物語が散りばめられています。最近の物語では、多くの川や森を将来の変化に備えて復元する運動があります。モンタナ州には自然のままの風景というイメージがありますが、現実には沢山の金、銅、石炭などの鉱山や油田、その他環境汚染の原因となるものがあり、生態系を保護する緊急対策が叫ばれています。

私は2016年5月に修士の学位を取って卒業しますが、その後どうするか考えています。私は近くのNGOで働くか、私の住む地域での学校とネットワークを持つ機会を見つけないと思っています。日本で暮らし、個人の暮らしに貢献するコミュニティ社会への愛着を感じました。それに報いるため、私は将来、学校や学生たちと協力したいと考えています。私は環境の研究やプロジェクトが地方の学校やカリキュラムに組み込まれ、学生達が地域のコミュニティ社会と連動する方法を見つけたいと思っています。

当面、周りの素晴らしい景色、場所、学校に在ることを満喫する積りです。千葉の皆さんと過ごし、近隣コミュニティ社会のより良い未来を創造するため、どう対処し、どう支援していくべきかという識見を与えて下さり感謝しています。

太巻き寿司で新任ALTを歓迎する会を開催

10月17日(土)千葉市生涯学習センターで、太巻き寿司で新任ALTを歓迎する会を開催しました。参加者はウィスコンシン州出身で県内の高等学校に着任した新任7名を含むALT13名のほか総勢31名ですが、千葉伝統郷土料理研究会会長の峯岸喜子さん、三橋早苗さん(CWA運営委員)、山崎裕香さんのご指導のもと、とても楽しく和やかに過ごすことができました。

三橋さんは早朝3時から下準備を始め、10時半のスタートに万全の態勢で臨みました。まず、峯岸さんと三橋さんが、皆さんが作るバラと桃の花の巻き寿司の作り方を教え、英語と日本語、身振り、手ぶりでの説明に、参加者は真剣な眼差しで時には質問するなどして聞き入りました。巻き寿司が完成後の切り口を見た瞬間“Look like a magic”の声が上がりました。

いよいよ、参加者が作る番です。ALTの皆さんはその本領を如何なく発揮し、手際よく作り始め、テーブルによっては日本人に作り方を教えていました。やがて各テーブルに綺麗な花が咲誇った後、スペシャルメニューとして、峯岸さんと三橋さんが蝶々と熊の巻き寿司を作りました。切り口を見た瞬間“Oh, my God!”と叫ぶなど歓声が沸きました。

その後、お寿司、スープ、抹茶羹(まっちゃかん)、柿や梨などをいただきながら歓談の時間となり、各テーブルでは日本語と英語を交えた会話で親睦を深めました。また、各ALTからの自己紹介のコーナーでは、多くの質問にウイットに富んだ応答などがあり会場は大いに盛り上がりました。

最後に、参加者から、「寿司がおいしかった」、「楽しかった」、「よかった」、「熊と蝶々は難しい」、「Cool」「Amazing」という感想があったことを紹介します。



峯岸さんと三橋さんの手元をじっと見つめる参加者



和気あいあい巻き寿司を作るALTの皆さん



芸術品とも言うべき熊(上)と蝶々(下)の巻き寿司



各テーブルでの団らんの様子

ウィスコンシン州出身のALTを紹介します！

県立高校には多くのウィスコンシン州出身のALTがいます。

ALTとは、Assistant Language Teacherの略で、外国語を母国語とする外国語指導助手をいいます。

現在県内の小中、高等学校には、英語の発音や国際理解の向上のため多くのALTが配置されていますが、今回県立高校にいるウィスコンシン州出身のALTを紹介します。



顔写真左から

Margaret O'Connell (柏井高校)
Claire Stathas (君津高校)

後列左から

Lucas Young (八街高校)
Jacob Wiering (匝瑳高校)
Jacob Stroth (松戸国際高校)
David Klug (流山おおたかの森高校)
Patrick Grimes (安房高校、長狭高校)

前列左から

Ian Beck (東金高校)
Victoria Vlisides (匝瑳高校)
Andrea Kahlow (成田国際高校)
Najja Gay (松戸国際高校)
Rebecca Hafermann (流山おおたかの森高校)
Kristen Roth (幕張総合高校)
Kenyea Ganda (東金高校)
Jacob Letter (土気高校・千城台高校)

※ () 中は所属高校

森田健作知事とクレーフィッシュ・ウィスコンシン州副知事との会談に 赤田靖英千葉ウイスコンシン協会副会長が出席

去る9月13日(日)第47回日本・米国中西部会 日米合同会議の出席のため、来日されたクレーフィッシュ・ウィスコンシン州副知事と森田知事の会談がホテルニューオータニ(東京)で、行われました。

当該会談へ、千葉ウイスコンシン協会からは、25年前の姉妹提携の式典に報道記者としてウイスコンシン州へ行かれた赤田靖英副会長(株)千葉日報社特別顧問)が出席されました。

赤田副会長は、姉妹提携調印式での様子を、トミー・G.トンプソン知事(当時)と沼田武知事(当時)のご挨拶を交えて披露しました。

クレーフィッシュ・ウィスコンシン州副知事は、当時と変わらず、千葉県との姉妹提携は非常に重要なものと考えており、この姉妹提携が末永くつづくことを心から願っていますと述べられました。

その他、ウイスコンシン州と千葉県との経済交流について意見交換が行われました。



左側から3番目がクレーフィッシュ副知事
右側から2番目が森田知事、3番目が赤田副会長

銚子はね太鼓保存会が地域伝統芸能大賞「地域振興賞」を受賞



賞状を授与される宮崎義政会長

10月11日(日)秋田県横手市で開催された地域伝統芸能全国大会において、地域伝統芸能大賞などの表彰式が執り行われ、銚子はね太鼓保存会(平成19年度友好使節団としてウイスコンシン州に派遣)に対し地域伝統芸能大賞「地域振興賞」が授与されました。

地域伝統芸能大賞は、一般財団法人地域伝統芸能活用センターが観光又は商工業の振興に顕著な貢献が認められる地域伝統芸能団体等に対し平成5年から表彰しており、本県では佐原の大祭、成田祇園祭に続き3番目です。

表彰式に続いて受賞者による公演があり、銚子はね太鼓保存会の会員一同は渾身の太鼓踊りを披露し、会場から盛大な拍手を受けました。同保存会からは、今後もこの賞に相応しい団体として地域に貢献していきたいとのコメントをいただいています。

CWA 入会のご案内

- 【会費】(2015年5月1日現在/個人104名・団体16団体・賛助3団体)
- 1 個人会員 2,000円
 - 2 団体会員 10,000円
 - 3 賛助会員 20,000円(1口)(※何口でも可)

【事業内容】

- 1 ウイスコンシン州との姉妹交流事業(派遣・受入)
- 2 会員等交流事業
- 3 ウイスコンシン州に関する情報収集とその発信
- 4 地域の国際交流事業への参加

【特典】

- ☆ 会報(CWA NEWS)の発行
- ☆ ウイスコンシン州との交流イベントの企画運営に参加
- ☆ 交流イベントのご案内
- ☆ ウイスコンシン州内の団体等との交流をバックアップ

【会費納入方法】

銀行振込(ゆうちょ銀行・千葉銀行)または郵便振替
※詳しくは下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

電話 043-223-2394(千葉県総合企画部国際課内)

【編集後記】

千葉ウイスコンシン協会ではこの10月24日から11月1日にかけてウイスコンシン州へ友好使節団員20名を派遣し、全員無事に帰ってまいりました。ウイスコンシン州での様々な交流活動の様子は来年3月発行(予定)の第34号でページ数を増やして紹介しますので楽しみにしてください。

発行所: 千葉ウイスコンシン協会

発行人: 森山茂男 編集: 広報部会

<http://chiba-wisconsin.net/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階

(公財)ちば国際コンベンションビューロー内

*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2394(千葉県国際課内)